

第304回現代史研究会

1月20日(土)午後1:00~5:00

場所: 明治大学駿河台校舎・リバティタワー7階1076号教室

## テーマ: 今日もなお徘徊する亡霊たちー731部隊の戦後史

講師: 加藤哲郎 (一橋大学名誉教授)

参考文献: 加藤哲郎著『「飽食した悪魔」の戦後ー731部隊と二木秀雄「政界ジープ」』(花伝社2017.5刊) <http://netizen.html.xdomain.jp/Monthly.html>

### 1. 日本の学術教育体制の現在ー大学改革と軍産学協同

- ① 湯川秀樹 1945年日記の公開ー「戦争と科学者」の新事例の暫定的解説
- ② 日本の大学のグローバル化ー世界大学ランキング100位内10校参入の幻想
- ③ 留学生30万人計画の内実ー英語教育の罨、中国人留学生・人文社会科学中心
- ④ 運営費交付金・私学援助削減と競争的資金獲得の強制ー忙しすぎる若手研究者
- ⑤ 基礎科学・人文社会科学の衰退と米軍・防衛装備庁予算の誘惑

(参考) 湯川秀樹日記 1945

<https://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~yhal.oj/diary.html>

日本語版 Wikipedia 「世界大学ランキング」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/世界大学ランキング>

### 2. 関東軍731部隊の人体実験・細菌戦と戦後の隠蔽・免責・復権

- ① 17年夏NHKスペシャル「731部隊の真実」の衝撃と反響、
- ② 1945.8-12月「隠蔽」 天皇の戦争責任、「3つの掟」、人体実験とベスト戦以外供述へ
- ③ 1946-47年「免責」米軍4次の調査団のG2管理、データ提供の取引、LS/IPS調査妨害
- ④ 転換点としての48年帝銀事件 事実上の731部隊解散、隊員3560人の歩みの分岐
- ⑤ 1945.8以降「復権」GHQ/PHWの原爆調査・感染症対策・厚生省/医学部医師改革

(参考) 講演記録「731部隊の隠蔽・免責・復権と二木秀雄」

<http://netizen.html.xdomain.jp/731npo.pdf>

### 3. 731部隊二木秀雄の「政界ジープ」vs.佐和慶太郎の「真相」ー現代「文春砲」の原型

- ① 戦後占領期「時局雑誌」の興亡 10年間公称10万部の左右大衆ゴシップ政治誌
- ② GHQ検閲下、二木秀雄「輿論」原爆報道と「政界ジープ」ゾルゲ事件報道
- ③ 日本共産党員佐和慶太郎の人民社「真相」の天皇制批判、資本主義批判
- ④ 1949-50年 ソ連ハバロフスク細菌戦裁判をめぐる両誌の対抗ー731細菌戦の開き直り
- ⑤ 731医学復権に果たした二木秀雄の役割 精魂塔・精魂会、ミドリ十字・恩給と総会屋

(参考) 講演記録「戦後時局雑誌の興亡 1946-57 『政界ジープ』vs.『真相』」

<http://netizen.html.xdomain.jp/jikyoku.pdf>

# 今日もなお徘徊する亡霊たち —731部隊の戦後史

2018/1/20 第304回現代史研究会 加藤 哲郎 (Netizen College)

<1 軍産学協同、2 731部隊の隠蔽・免責・復権、3 時局雑誌>

二木秀雄 731結核班長  
『政界ジープ』/ミドリ十字

731部隊隊友会=精魂会  
731のミニ靖国=精魂塔

満州国官僚岸信介孫  
加害史否定戦争賛美



安倍、生体実験部隊の名前'731'が書かれた飛行機に乗りサムズアップ

## 第一部 湯川秀樹日記1945.1-12

<https://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~yhal.oj/diary.html> (2017.12.21初公開)



- ①1945.1.8朝日「科学者新春の夢 華府を吹飛ばす」に言及なし、1.11朝日記者来室
- ②3.5-9浜松出張「平田森三氏」「測定見学 野村少将等と会談」→陸軍野村恭雄少将、東大第二工学部平田・糸川英夫教授等の最終決戦兵器「マルケ」熱誘導爆弾の浜名湖測定実験立会(44年マグネロン兵器の海軍島田実験にも朝永振一郎と共に参加)
- ③6.23「F研究第一回打合せ会」、7.12「赤外談話会・荒木源太郎君電子討論会」→海軍・荒勝原爆開発
- ④6.28,7.2 東大理への10月転勤、上京・一端受諾の後「矢張りどうしてもいきたくない」ので辞退、京大残留→背後に陸軍・仁科芳雄・菊池正士の意向は？
- ⑤7.28ポツダム宣言筆写
- ⑥8.7広島新型爆弾、原子爆弾新聞解説を断る、8.13荒勝文策教授実地報告
- ⑦9.6 東久邇宮施政方針「言論の自由」、9.8尾崎行雄意見書筆写「文化と戦争は両立し得ざす、戦争を根絶せしむべき」、9.15米軍士官会談、京都学派の高山岩男・西谷啓治らと頻繁に会う。
- ⑧12.13,15 米軍サイクロトロン破壊

# 湯川・朝永博士、軍研究で対照的 史 家ら知見(朝日17.12.5静岡版)

- 太平洋戦争中にマグネトロン(発振用真空管)などを用いた兵器開発研究をしていた島田市の戦争遺構「第二海軍技術廠(しょう)牛尾実験所」について語る会が3日、同市金谷代官町の金谷公民館で開かれた。研究者や郷土史家6人が、最新の知見を持ち寄り、市民ら約100人が耳を傾けた。2人のノーベル賞学者の対照的な関与も判明した。



- 牛尾実験所は、2013~14年、大井川の改修工事に伴い、発掘された。約550平方メートルの電源室と、直径10メートルのパラボラアンテナ用の台座2基、約100平方メートルの発振室などが見つかった。戦争遺跡として保存を求める署名が市に提出されたが、15年、工事に伴って取り壊された。

研究の中心は、マグネトロンでマイクロ波を発生させ、上空の爆撃機に照射して撃ち落とすという計画。物理的に未解明の要素が多く、研究には理論系の物理学者が多数参加していたという。

その中には後にノーベル賞を受賞した朝永振一郎や湯川秀樹の姿もあった。1944年4月に島田実験所で撮影された集合写真にも2人の姿が写っている。

当初、湯川はたまたま島田であった物理学会に参加しただけで、実験所には関与していないとみられていた。だが、同年12月から実験所員だった飯島泰蔵・元東京工業大教授の証言(今年4月、河村教授が採録)によると、湯川はしばしば実験所に呼ばれていたという。

「湯川先生が全然、戦争反対で、会合に来られる予定になっているのに、いつも欠席になっている」

「それで阪大の菊池(正士)先生が、湯川はけしからんと」

一方、朝永は研究に積極的だったという。

## スーパーグローバル大学創成支援事業

平成29年度予算額 63億円(平成28年度予算額 70億円)

○ 徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し、我が国の高等教育の国際通用性、ひいては国際競争力強化の実現を図り、優れた能力を持つ人材を育成する環境基盤を整備する。

### 【事業概要】

世界トップレベルの大学との交流・連携を実現、加速するための新たな取組や、人事・教務システムの改革、学生のグローバル対応力育成のための体制強化など、国際化を徹底して進める大学を重点支援。

### ○トップ型(13件)

世界ランキングトップ100を目指す力のある大学を支援

### ○グローバル化牽引型(24件)

これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国社会のグローバル化を牽引する大学を支援



### 【採択大学が設定している主な成果指標】

#### 1 国際化関連

- 外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合
- 全学生に占める外国人留学生の割合
- 日本人学生に占める単位取得を伴う留学経験者の割合
- 大学間協定に基づく派遣日本人学生数の割合
- 外国語による授業科目割合
- 外国語のみで卒業できるコースの在籍者割合
- 外国語力基準を満たす学生数の割合
- シラバスの英語化割合
- 混住型学生宿舎に同居する日本人学生の割合
- 柔軟な学業履の設定(全学でのクォーター制導入等)

#### 2 ガバナンス関連

- 年俸制の導入割合
- テニュアトラックの導入割合
- 事務職員の高度化(外国語力基準を満たす職員割合)

#### 3 教育改革関連

- ナンバリング実施割合
- TOEFL等外部試験の学部入試への活用割合(対象入学生員)
- 学生による授業評価実施授業科目割合

# 世界大学ランキング100位内10校の幻想

18年東大46位、京大74位...アジア1位も程遠い「世界大学ランキング」に衝撃が広がる

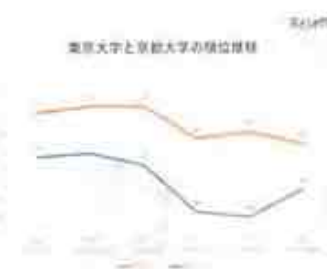
1位はオックスフォード大学(英)、2位はケンブリッジ大学(英)、3位はカリフォルニア工科大学(米)とスタンフォード大学(米)。10位のチューリッヒ工科大学(スイス)を除き、トップ20をイギリスとアメリカの大学が独占した。アジアで最もランクが高いのは、22位のシンガポール国立大学。中国の名門である北京大学(27位)と清華大学(30位)も上位にランクインした。

日本の大学を見てみると、200位以内にランクインしたのは46位の「東京大学」と、韓国のソウル大学校と並んで74位の「京都大学」の2校のみ。東京大学は昨年の39位から7ランクダウンし過去最低の順位となった。また、201位~250位内に「大阪大学」と「東北大学」。251~300位に「東京工業大学」。301~400位に「名古屋大学」と「九州大学」、401~500位に「北海道大学」と「東京医科歯科大学」「筑波大学」がランクインしている。(明治大学は日本34位でトップ30のボーダーライン)

The World University Rankings 日本版2017(掲載期間)

ReseMom

| 大学 (University) | 国 (Country) | 2017年順位 (2017 Ranking) | 2016年順位 (2016 Ranking) |
|-----------------|-------------|------------------------|------------------------|
| オックスフォード大学      | 英国          | 1                      | 1                      |
| ケンブリッジ大学        | 英国          | 2                      | 2                      |
| カリフォルニア工科大学     | 米国          | 3                      | 3                      |
| スタンフォード大学       | 米国          | 4                      | 4                      |
| ハーバード大学         | 米国          | 5                      | 5                      |
| MIT             | 米国          | 6                      | 6                      |
| プリンストン大学        | 米国          | 7                      | 7                      |
| MIT             | 米国          | 8                      | 8                      |
| MIT             | 米国          | 9                      | 9                      |
| MIT             | 米国          | 10                     | 10                     |
| チューリッヒ工科大学      | スイス         | 11                     | 11                     |
| MIT             | 米国          | 12                     | 12                     |
| MIT             | 米国          | 13                     | 13                     |
| MIT             | 米国          | 14                     | 14                     |
| MIT             | 米国          | 15                     | 15                     |
| MIT             | 米国          | 16                     | 16                     |
| MIT             | 米国          | 17                     | 17                     |
| MIT             | 米国          | 18                     | 18                     |
| MIT             | 米国          | 19                     | 19                     |
| MIT             | 米国          | 20                     | 20                     |
| MIT             | 米国          | 21                     | 21                     |
| MIT             | 米国          | 22                     | 22                     |
| MIT             | 米国          | 23                     | 23                     |
| MIT             | 米国          | 24                     | 24                     |
| MIT             | 米国          | 25                     | 25                     |
| MIT             | 米国          | 26                     | 26                     |
| MIT             | 米国          | 27                     | 27                     |
| MIT             | 米国          | 28                     | 28                     |
| MIT             | 米国          | 29                     | 29                     |
| MIT             | 米国          | 30                     | 30                     |
| MIT             | 米国          | 31                     | 31                     |
| MIT             | 米国          | 32                     | 32                     |
| MIT             | 米国          | 33                     | 33                     |
| MIT             | 米国          | 34                     | 34                     |
| MIT             | 米国          | 35                     | 35                     |
| MIT             | 米国          | 36                     | 36                     |
| MIT             | 米国          | 37                     | 37                     |
| MIT             | 米国          | 38                     | 38                     |
| MIT             | 米国          | 39                     | 39                     |
| MIT             | 米国          | 40                     | 40                     |
| MIT             | 米国          | 41                     | 41                     |
| MIT             | 米国          | 42                     | 42                     |
| MIT             | 米国          | 43                     | 43                     |
| MIT             | 米国          | 44                     | 44                     |
| MIT             | 米国          | 45                     | 45                     |
| MIT             | 米国          | 46                     | 46                     |
| MIT             | 米国          | 47                     | 47                     |
| MIT             | 米国          | 48                     | 48                     |
| MIT             | 米国          | 49                     | 49                     |
| MIT             | 米国          | 50                     | 50                     |



ランクインした日本の大学

| 順位 (Ranking) | 大学名 (University Name) | 国 (Country) |
|--------------|-----------------------|-------------|
| 1            | 東京大学                  | 日本          |
| 2            | 京都大学                  | 日本          |
| 3            | 東京工業大学                | 日本          |
| 4            | 東北大学                  | 日本          |
| 5            | 大阪大学                  | 日本          |
| 6            | 名古屋大学                 | 日本          |
| 7            | 九州大学                  | 日本          |
| 8            | 北海道大学                 | 日本          |
| 9            | 筑波大学                  | 日本          |
| 10           | 東京医科歯科大学              | 日本          |
| 11           | 明治大学                  | 日本          |
| 12           | 早稲田大学                 | 日本          |
| 13           | 慶応義塾大学                | 日本          |
| 14           | 横浜国立大学                | 日本          |
| 15           | 神戸大学                  | 日本          |
| 16           | 岡山大学                  | 日本          |
| 17           | 広島大学                  | 日本          |
| 18           | 山口大学                  | 日本          |
| 19           | 徳島大学                  | 日本          |
| 20           | 香川大学                  | 日本          |
| 21           | 高松大学                  | 日本          |
| 22           | 愛媛大学                  | 日本          |
| 23           | 愛知県立大学                | 日本          |
| 24           | 岐阜大学                  | 日本          |
| 25           | 富山大学                  | 日本          |
| 26           | 石川県立大学                | 日本          |
| 27           | 福井大学                  | 日本          |
| 28           | 滋賀県立大学                | 日本          |
| 29           | 三重県立大学                | 日本          |
| 30           | 奈良県立大学                | 日本          |
| 31           | 和歌山県立大学               | 日本          |
| 32           | 鳥取県立大学                | 日本          |
| 33           | 島根県立大学                | 日本          |
| 34           | 岡山県立大学                | 日本          |
| 35           | 広島県立大学                | 日本          |
| 36           | 山口県立大学                | 日本          |
| 37           | 徳島県立大学                | 日本          |
| 38           | 香川県立大学                | 日本          |
| 39           | 高松県立大学                | 日本          |
| 40           | 愛媛県立大学                | 日本          |
| 41           | 愛知県立大学                | 日本          |
| 42           | 岐阜県立大学                | 日本          |
| 43           | 富山県立大学                | 日本          |
| 44           | 石川県立大学                | 日本          |
| 45           | 福井県立大学                | 日本          |
| 46           | 滋賀県立大学                | 日本          |
| 47           | 三重県立大学                | 日本          |
| 48           | 奈良県立大学                | 日本          |
| 49           | 和歌山県立大学               | 日本          |
| 50           | 鳥取県立大学                | 日本          |
| 51           | 島根県立大学                | 日本          |
| 52           | 岡山県立大学                | 日本          |
| 53           | 広島県立大学                | 日本          |
| 54           | 山口県立大学                | 日本          |
| 55           | 徳島県立大学                | 日本          |
| 56           | 香川県立大学                | 日本          |
| 57           | 高松県立大学                | 日本          |
| 58           | 愛媛県立大学                | 日本          |
| 59           | 愛知県立大学                | 日本          |
| 60           | 岐阜県立大学                | 日本          |
| 61           | 富山県立大学                | 日本          |
| 62           | 石川県立大学                | 日本          |
| 63           | 福井県立大学                | 日本          |
| 64           | 滋賀県立大学                | 日本          |
| 65           | 三重県立大学                | 日本          |
| 66           | 奈良県立大学                | 日本          |
| 67           | 和歌山県立大学               | 日本          |
| 68           | 鳥取県立大学                | 日本          |
| 69           | 島根県立大学                | 日本          |
| 70           | 岡山県立大学                | 日本          |
| 71           | 広島県立大学                | 日本          |
| 72           | 山口県立大学                | 日本          |
| 73           | 徳島県立大学                | 日本          |
| 74           | 香川県立大学                | 日本          |
| 75           | 高松県立大学                | 日本          |
| 76           | 愛媛県立大学                | 日本          |
| 77           | 愛知県立大学                | 日本          |
| 78           | 岐阜県立大学                | 日本          |
| 79           | 富山県立大学                | 日本          |
| 80           | 石川県立大学                | 日本          |
| 81           | 福井県立大学                | 日本          |
| 82           | 滋賀県立大学                | 日本          |
| 83           | 三重県立大学                | 日本          |
| 84           | 奈良県立大学                | 日本          |
| 85           | 和歌山県立大学               | 日本          |
| 86           | 鳥取県立大学                | 日本          |
| 87           | 島根県立大学                | 日本          |
| 88           | 岡山県立大学                | 日本          |
| 89           | 広島県立大学                | 日本          |
| 90           | 山口県立大学                | 日本          |
| 91           | 徳島県立大学                | 日本          |
| 92           | 香川県立大学                | 日本          |
| 93           | 高松県立大学                | 日本          |
| 94           | 愛媛県立大学                | 日本          |
| 95           | 愛知県立大学                | 日本          |
| 96           | 岐阜県立大学                | 日本          |
| 97           | 富山県立大学                | 日本          |
| 98           | 石川県立大学                | 日本          |
| 99           | 福井県立大学                | 日本          |
| 100          | 滋賀県立大学                | 日本          |

### 世界ランキングベスト10

| 順位 (Ranking) | 大学名 (University Name) | 国 (Country) |
|--------------|-----------------------|-------------|
| 1            | オックスフォード大学            | イギリス        |
| 2            | ケンブリッジ大学              | イギリス        |
| 3            | カリフォルニア工科大学           | アメリカ        |
| 4            | スタンフォード大学             | アメリカ        |
| 5            | ハーバード大学               | アメリカ        |
| 6            | MIT                   | アメリカ        |
| 7            | プリンストン大学              | アメリカ        |
| 8            | MIT                   | アメリカ        |
| 9            | MIT                   | アメリカ        |
| 10           | MIT                   | アメリカ        |

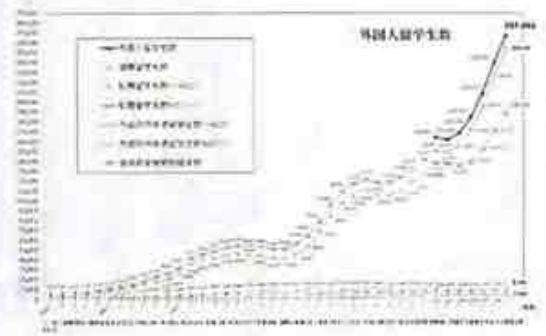
\*注: 10位は、同じ大学の異なる学部が複数記載されている。

# 「留学生30万人計画」の内実=アジア・人文社会中心

「日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界との間のヒト、モノ、カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として、2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指す。その際、高度人材受入れとも連携させながら、国・地域・分野などに留意しつつ、優秀な留学生を戦略的に獲得していく。」(文部科学省、外務省、法務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、2008.7.29 閣議決定)

以下、統計は日本学生支援機構(JASSO)平成29年度外国人留学生在籍状況調査結果

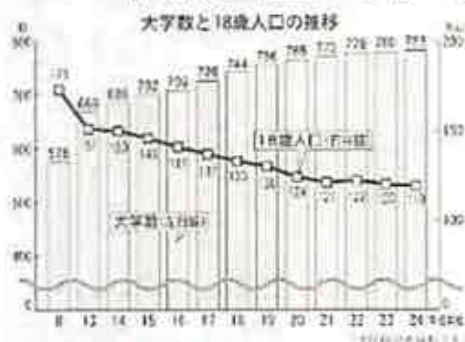
## 「留学生30万人計画」骨子の概要



| 大学種別 (University Type)  | 2017年 (2017) | 2016年 (2016)  |
|---|--------------|---------------|
| 大学 (University)   | 4,773        | 2,894 (57.7%) |
| 大学(学部) (University (Faculty))   | 7,440        | 3,377 (45.4%) |
| 短期大学 (Junior College)   | 1,611        | 385 (23.2%)   |
| 高等専門学校 (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology) | 974          | 512 (52.6%)   |
| 専修学校(専門課程) (Specialized School (Special Course))                          | 12,771       | 8,236 (64.6%) |
| 専修学校(短期課程) (Specialized School (Short Course))                            | 1,231        | 154 (12.5%)   |
| 私立大学等 (Private University, etc.)  | 7,454        | 4,481 (60.1%) |

| 地域名          | 留学生数                  | 構成比               | 専攻分野 | 留学生数                  | 構成比               |
|--------------|-----------------------|-------------------|------|-----------------------|-------------------|
| アジア          | 249,242人<br>(211,627) | 93.3%<br>(93.0)   | 人文科学 | 124,305人<br>(111,206) | 46.5%<br>(46.5)   |
| 欧州           | 8,669人<br>(7,986)     | 3.2%<br>(3.3)     | 社会科学 | 67,664人<br>(60,947)   | 25.3%<br>(25.5)   |
| 北米           | 1,182人<br>(3,099)     | 1.2%<br>(1.3)     | 理学   | 3,452人<br>(2,927)     | 1.3%<br>(1.2)     |
| アフリカ         | 2,230人<br>(1,932)     | 0.8%<br>(0.8)     | 工学   | 30,804人<br>(27,793)   | 11.5%<br>(11.6)   |
| 中東           | 1,313人<br>(1,674)     | 0.6%<br>(0.7)     | 農学   | 3,739人<br>(3,572)     | 1.4%<br>(1.5)     |
| 中南米          | 1,426人<br>(1,300)     | 0.5%<br>(0.6)     | 保健   | 4,356人<br>(3,825)     | 1.6%<br>(1.6)     |
| 大洋州          | 756人<br>(663)         | 0.3%<br>(0.3)     | 家政   | 4,787人<br>(3,910)     | 1.8%<br>(1.6)     |
| その他<br>(加盟国) | 4人<br>(0)             | 0.0%<br>(0.0)     | 教育   | 3,221人<br>(3,145)     | 1.2%<br>(1.3)     |
| 計            | 267,042人<br>(239,287) | 100.0%<br>(100.0) | 芸術   | 8,432人<br>(7,032)     | 3.2%<br>(2.9)     |
|              |                       |                   | その他  | 16,282人<br>(14,930)   | 6.1%<br>(6.2)     |
|              |                       |                   | 計    | 267,042人<br>(239,287) | 100.0%<br>(100.0) |

## 忙しすぎる若手研究者——外部資金 調達強制・貸与制奨学金奴隷



# 軍事研究・軍産学協同へ

- 文科省は21世紀理工系ノーベル賞多数受賞を下敷きに「魅力ある科学技術大国日本」を夢見た
- しかし受賞は20世紀の成果
- 2016医学・生理学賞受賞大隅良典教授「日本の大学の状況は危機的で、このままいくと10年後、20年後にはノーベル賞受賞者が出なくなる」「1.研究費・研究時間の劣化による、研究の挑戦性・継続性をめぐる危機、2.若手研究者の雇用・研究環境の劣化による次代を担う研究者をめぐる危機、3.世界と競争できる研究拠点の厚みが不十分なことによる『知の集積』をめぐる危機」
- 2008物理学賞受賞者益川敏英教授「諸刃の科学」「『選択と集中』に翻弄される現代の科学」「増える軍学協同研究 揺らく科学の平和利用」「科学者は一人で放っておいたら軍事を含めて研究に没頭する」
- 防衛装備庁「安全保障技術研究推進制度」17年度110億円22大学27公的研究機関応募
- 米軍2008-16年135件8億8000万円研究助成 阪大・東工大・京大等
- 池内了『科学者と戦争』『科学者と軍事研究』岩波新書、2016・17、杉山滋郎『「軍事研究」の戦後史』ミネルヴァ17、沢井実『近代日本の研究開発体制』名大出版12、駒込武他編『戦時下学問の統制と動員』東大出版11、等の警告
- 日本学術会議50/67声明を継承17声明「近年、再び学術と軍事が接近しつつある」「大学等の研究機関における軍事的安全保障研究、すなわち、軍事的な手段による国家の安全保障にかかわる研究が、学問の自由及び学術の健全な発展と緊張関係にある」
- →731部隊研究の今日的意義、南京大虐殺・従軍慰安婦と共に東アジア歴史認識の中心争点＝ユネスコ世界遺産

## 第二部 17・8.13NHKスペシャル

### 「731部隊の真実—エリート医学者と人体実験」の衝撃

- 背景＝1981 森村誠一『悪魔の飽食』、90年代全国「731展」、中国側被害者損害賠償訴訟、21世紀米国CIA等戦犯資料公開
- 1949ハバロフスク裁判の音声資料発掘、隊員3000人(1991プライムテンは供述文書発掘)
- 「匪賊死刑囚＝マルタ」チフス・凍傷人体実験
- ベスト蚤細菌兵器の3回使用
- 被告梶塚隆二・川島清・西俊英・柄澤十三夫、古都・倉員証言、生存少年兵三角武・須永鬼久太
- 京大・東大医学者の積極的関与
- 「技師」田部井和・吉村寿人「囑託」戸田正三・長與又郎ら
- 戦時研究特別予算年300億
- 時代の空気・風潮、学術会議の軍学協同



- 映像・音声の圧倒的迫力
- 1976 吉永春子、1991 NHKプライムテン
- ネットウヨの批判・攻撃
- 描けなかった隠蔽＝天皇の戦争責任
- GHQ・G2による庇護
- 免責＝米軍とのパートナー
- 人体実験データの提供・機密費25万円
- 復権＝医学界の重鎮に、ミドリ十字設立
- GHQ・POW(公衆衛生福祉局)の役割
- 同窓会「精魂会」精魂塔・軍人恩給

## 中国語版



11

## ネットウヨ版



12



国体護持(秩父宮?↓)



# 1 731細菌戦部隊3560人の戦後

- ①細菌学博士53人(朝枝帰国命令)、将校131人、技師50人のほか  
3千人以上の一般隊員は?
- ②解散なき軍隊、多磨霊園・精魂塔はミニ靖国
- ③731企画課長・結核梅毒人体実験の二木秀雄が戦後ジープ社社長  
1950日本ブラッドバンク設立  
1953精魂社社長、  
1955 精魂会を組織し、多磨霊園  
精魂塔に私費150万円投入





# 関東軍731部隊の全容(厚労省1982/2012)

陸海軍人給与(昭和18年)

| 階級  | 月額  | 年額   | 階級   | 月額  | 年額(軍属) |
|-----|-----|------|------|-----|--------|
| 大将  | 550 | 6600 | 大将   | 550 | 6600   |
| 中将  | 483 | 5800 | 中将   | 483 | 5800   |
| 少将  | 416 | 5000 | 少将   | 416 | 5000   |
| 大佐  | 370 | 4440 | 大佐   | 345 | 4150   |
| 中佐  | 310 | 3720 | 中佐   | 288 | 3450   |
| 少佐  | 220 | 2640 | 少佐   | 194 | 2330   |
| 大尉  | 155 | 1860 | 大尉   | 158 | 1900   |
| 中尉  | 94  | 1130 | 中尉   | 94  | 1130   |
| 少尉  | 70  | 850  | 少尉   | 70  | 850    |
| 准尉  | 110 | 1320 | 兵曹長  | 101 | 1220   |
| 曹長  | 75  | 900  | 上等兵曹 | 53  | 630    |
| 軍曹  | 30  | 360  | 一等兵曹 | 28  | 340    |
| 伍長  | 20  | 240  | 二等兵曹 | 23  | 278    |
| 兵長  | 13  | 156  | 兵長   | 14  | 172    |
| 上等兵 | 10  | 120  | 上等兵  | 13  | 156    |
| 一等兵 | 9   | 108  | 一等兵  | 11  | 130    |
| 二等兵 | 8   | 96   | 二等兵  | 8   | 96     |

単位：円、等級：一等級、給与：切給

### 臨時の諸費用

|         |       |
|---------|-------|
| ほかき     | 2銭    |
| 給湯      | 2銭    |
| 米(10kg) | 3円36銭 |
| 返還切込給   | 45円   |

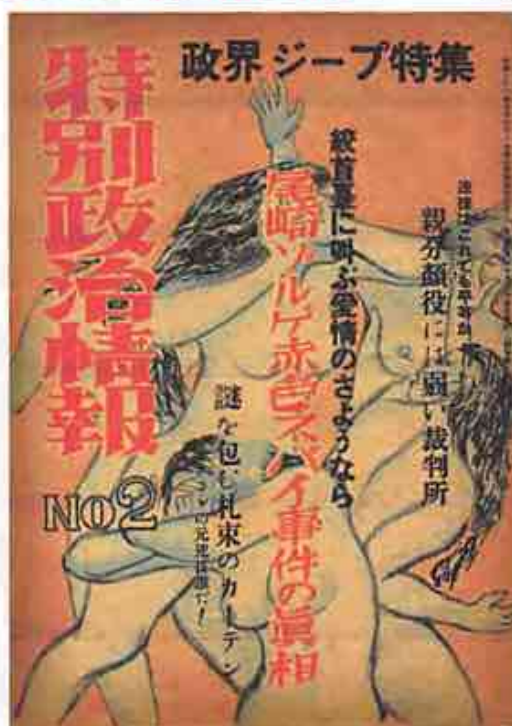
出典：大野敏也、小沢部郎 編『帝國陸海軍軍具』同成社、1984年

俸給表

- 1945.6.15[平房約1300,ハイラル165,牡丹江200,孫吳136,林口224,大連250=敗戦時約2275,約1000人抑留?]
- 1982国会厚生省3559, 2012厚生労働省公式発表=3560人
- 軍人 1339人
- 将校131人(医・理・農・薬・獣医学)
- 准士官18人
- 下士官163人
- 兵1027
- 軍属 2150人
- 技師50人(京大・東大等助教授級)
- 技手197人
- <以下、恩給対象外>
- 雇員1270人/ 傭人633人
- (他に中国人・朝鮮人「劳工」)
- <囑託>=東大・京大・慶大ほか当時の日本医学界の重鎮網羅
- <幹部同窓会精魂会242人・少年兵房友会数十人、計300人> 他の3000人以上は不明

## 探求の端緒：多磨霊園の5つの墓碑

ゾルゲ、尾崎秀実、同志たち：精魂塔(懇心平等万霊供養塔、Unit 731 Memorial)、二木秀雄墓碑



# 二木Futagi秀雄(1908-92)の数奇な生涯

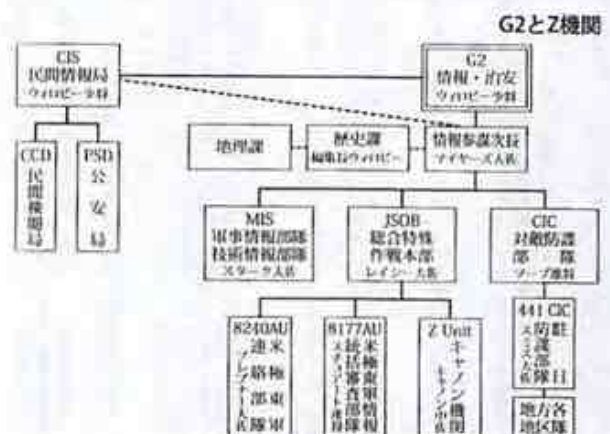
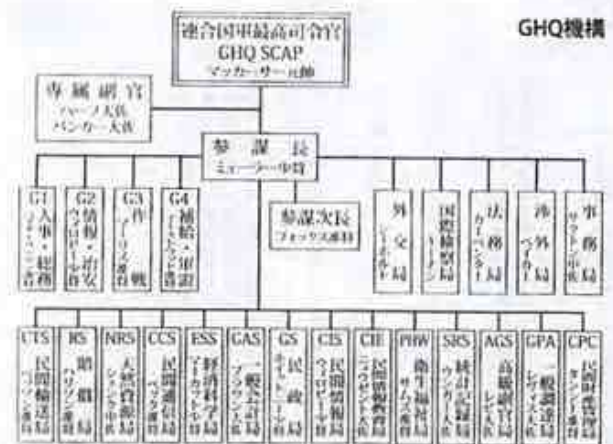
- 1) 731部隊総務部企画課長・結核班長で結核・梅毒生体実験、敗戦後、金沢731「仮司令部」事務局長格
- 2) 戦後金沢文化の先駆者: 雑誌『輿論』『日本輿論』刊行—一天皇制と原子力
- 3) 右派時局雑誌『政界ジープ』刊=左派『真相』のライバル  
・ジープ社社長、厚生省監修・総合科学研究会『とびら』『医学のとびら』刊行  
・1949浅草、厚生省・文部省・労働省・日教組後援『若き人々に贈る性生活展』主催

- 4) 最盛期1950年  
・ジープ社単行本400冊  
・日本ブラッドバンク創設(→ミドリ十字→薬害エイズ)  
・1955  
731部隊上級幹部同窓会「精魂会」結成・代表に、多磨霊園に精魂塔建立
- 5) 1956戦後最大の恐喝事件「政界ジープ事件」で検挙、最高裁で懲役3年確定
- 6) 1975新宿ロイヤル病院・日本イスラム教団代表

17

## GHQ占領支配

- ・GS中心非軍事化・民主化 vs. G2反共諜報部隊
- ・CIS・CIC(治安・警察・検閲・謀略)もG2ウィロビー傘下
- ・戦犯追及はIPS(国際検察局)・LS(法務局)も
- ・軍医はPHW, ESSにも
- ・G2ウィロビーが731情報独占・4次の来日調査団管理、IPS・LSを妨害
- ・旧参謀本部情報将校(有18末・河辺・服部ら)もG2歴史課・地理課でウィロビー傘下、反共再軍備



(出典: 尾形ニキヤン機関からの証言(藤野清良, 1973年, 71頁をもとに作成))

## 2 1945年8-12月「隠蔽」

### : GHQ諜報部G2ウィロビー少将の庇護下に

8.10 大本営証拠抹消命令(朝枝中佐)

8.11 石井四郎中将「3つの掟」

- ① 731軍歴をかくすこと
- ② あらゆる公職につかぬこと
- ③ 隊員相互の連絡は厳禁

8.26 鉄道・船で帰国、増田「会報」「一時帰休・自宅待機」、物資持込隠匿

9.20 金沢仮本部・石井「通報」予備役編入取消=731部隊存続

・千葉県稲毛留守業務部・太田澄大佐、佐藤重雄経理少佐が隠匿物資・給料・退職金・連絡網管理?

11.20 金沢・二木雑誌『輿論』刊行  
天皇制世論調査・原子力

8.15 軍務部「特殊研究処理要綱」隠匿

8.25 石井・参謀本部交渉

9-11 第一次サンダース調査

10 内藤・増田尋問、亀井

11 G2ウィロビー少将・有末精三が石井の身柄管理、マルタ人体実験と細菌戦実施以外は供述開始、マッカーサーの免責調査黙認、CIEソーブ准将等が戦犯容疑の石井探索

12 陸海軍解体、復員省

100人程度のスリム化構想挫折

・鎌倉会談、12月末「北野中将へ連絡事項」80人

(「マルタ」生体実験、ペストノミ細菌兵器使用以外はGHQに協力)

19

## 3-1 45-46「免責」第一段階

石井・北野中将は現れたがあくまで**防御用研究**

① 46.1-3 第二次トンプソン調査団

② CICソーブ准将追究に隠しきれずG2管理下で石井四郎を北野政次と共に尋問させる

③ トンプソンは疑ったが「実戦使用なし」報告

④ 5月ソーブ帰国でCICもG2ウィロビー傘下、参謀本部・服部卓四郎が中国から帰国し、有末機関・河辺機関と共にG2歴史課、ウィロビーの右腕になり対ソ・対共産党諜報、731問題管理

20

## 3-2 1946「免責」第二段階

国際検察局IPS・法務局LS捜査をG2が妨害

- ①46.3極東国際軍事裁判(東京裁判)国際検察局(IPS)モロウ大佐等の調査にG2が関係者・資料独占・妨害=ウィロビーほか「絶対的管轄」のもとで石井四郎ほか起訴されず
- ②GHQ/LS(法務局)スミス中尉らの人体実験調査・内藤良一ら尋問にG2ウィロビーが介入し、BC級戦犯捜査も中止、九大米兵解剖事件へ
- ③二木秀雄上京、米軍迎合46.8大衆時局ゴシップ雑誌『政界ジープ』誌(-56.3, 左派の『真相』に対抗)、当初は民主化・非軍事化、48から反共反ソ

21

## 3-3 47「免責」第三段階

米軍へのデータ提供とバーターでの免責

- 47.1 ソ連捕虜川島・柄澤証言をもとにソ連側がIPSを通じて石井・菊池・太田尋問要求
- ワシントン3省調整委(SWNCC)人体実験データ独占指令・G2立会のうえソ連尋問に応ぜよ
- C47.4-6第3次フェル調査団、亀井「鎌倉会議」でデータ提供免責20人、石井も全面協力
- 47.10-11第4次ヒル=ヴィクター調査団が50人・石川太刀雄実験データ25万円で米国独占
- 国務省の反対で文書免責はないがIPS/極東国際軍事裁判不訴追確定、48.11結審

22

## 帝銀事件の意味:731部隊解体

- ①48.1 帝銀14人毒殺に松井名刺と青酸化合物
- ②48.3警視庁がG2に軍関係捜査協力要請
- ③731関係者二木ら個別協力、石井犯人示唆
- ④48.8.3 G2有末・服部が軍青酸ルート中止命令
- ⑤48.8.21警視庁は名刺ルートで平沢貞通逮捕
- ⑥一般隊員も731関係者犯行と直観、広域捜査
- ⑦幹部提供リスト捜査で失職者も、給与遅配・未払い・連絡網崩壊への不満、石井と他幹部不和、隠匿物資払底、事実上の731部隊解散へ

23

### 4-1 「復権」:PHWサムズ准将の731重用 DDT革命・医療民主化の陰で

- 石井四郎、二木、亀井貫一郎らはG2謀略加担
- ①PHW(公衆衛生福祉局)サムズ准将管轄下で石川太刀雄・緒方富雄・小島三郎ら原爆調査団に
- ②伝染病・感染症対策で東大伝研・予研大量動員
- ③医学教育改革で京大等技官たちは教授に
- ④病院不足で軍医追放特例、内藤・太田ら開業医
- ⑤日特宮本光一等医薬業界復活・就職、ミドリ十字
- ⑥米軍406細菌戦部隊にも、朝鮮戦争時重用

24

# 第3部 戦後日本の時局雑誌 1946-57

---二木秀雄『政界ジープ』vs.佐和慶太郎『真相』



## 大衆時局雑誌：『真相』vs.『政界ジープ』



典型性＝両誌は10年約100号継続、公称10万部、スタイル酷似、政界裏話・スキャンダル・ゴシップ・女性問題で売る、今日の文春砲・新潮砲・選択等の原型

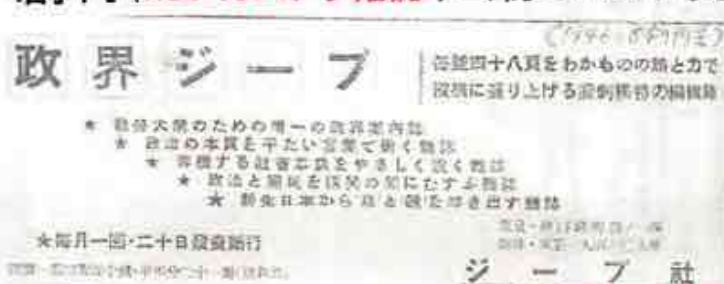
## 『真相』バクローvs.『政界ジープ』ゴシツプ



### 4-2 二木秀雄の復権

- ①『政界ジープ』公称10万部多角経営、医薬広告が銀行・保険と共に多く、宮本光一らと旧交
- ②49.4-51医師試験用・厚生省医務局編『医学のとびら』刊行、二木・石川・緒方ら常連寄稿
- ③梅毒人体実験の二木が49.9厚生省・労働省・文部省・東京都・日教組後援浅草「性科学展」
- ④ハバロフスク裁判謀略記事vs『真相』の暴露
- ⑤50.11朝鮮戦争を機に内藤・二木・宮本で日本ブラッドバンク創設、役員・株主に731関係者(北野政次ら)ミドリ十字で80年代薬害エイズに

## 1946.8 二木秀雄上京:ジープ社時局雑誌『政界ジープ』 創刊(not カストリ雑誌、当初はnot 右翼、「民主化」「厳正中立」)



- 1946・9「女の子にもわかる大衆の政治誌」「小粒でピリッとした政界裏面誌」
- 1948・9「今では政治の民主化の旗手として全国10万読者[プランゲでは5万]」「わが国唯一の大衆政治誌、政界浄化のために闘う政界ジープ、勇敢に真実を語る政界ジープ」「断然類誌を圧倒、躍進、特ダネ満載」
- 1949・8「ある権威ある調査で、総合雑誌は文藝春秋、婦人雑誌主婦の友、文芸雑誌小説新潮、政治時局雑誌では政界ジープが上半期最も売れた雑誌」
- 1950・3「ジープ社社長松山清一郎を詐称し金銭強要は当社と関係なし」
- 1950・9創刊5周年「総合雑誌でも娯楽雑誌でもない流動型時局雑誌、戦後続々現れたいわゆる時局雑誌の多くはすでに影を消したが、今日残っているレポートにしる真相にせよ旋風にしろ例外なく、その内容は別として、企画の立て方から編集の組み方まで、いちばん早く発足した本誌のスタイルをまねてスタートした」
- 1952・4「我が国唯一の大衆政治誌」復刊、1955・9創刊十周年「政財界の裏面誌」

29

## 1949.2 ウィロビー報告前にゾルゲ事件を「赤色スパイ事件」と名付けた二木『政界ジープ』48.10



「ゾルゲの遺体がどこにあるのか、どこに埋葬されているのかということは公表されませんでしたし、全然わかりませんでした。ところが、昭和23年の10月だったと思いますが、『政界ジープ』っていう雑誌に“尾崎ゾルゲ赤色スパイ事件の真相”という記事が出ているのを見つけて買って帰ったんです。...その記事のなかに、ゾルゲの遺体は引き取り手がなくて、拘置所が雑司が谷の共同墓地に土葬して、そこにささやかな木の墓標を立てたというのがあり...」(石井花子)



←「懇心平等万霊供養塔」(精魂塔) 建立  
年月日 昭和三〇年八月一三日、碑石  
地面積 五四・一五平方メートル、永代  
使用料 八六六四〇円、建立者 二木秀  
雄(精魂会代表者)



30



# 『政界ジープ』のライバル誌『真相』

——検閲研究素材、日本共産党史



①占領期新聞雑誌資料データベース：創刊号1946.3—36号1949.12の表紙・目次・広告・タイトル無含む記事1680件中242件約14,496検閲(「Suppress公表禁止」「Delete一部削除」「Hold保留」分類可)、②「真相裁判」天皇事件不敬罪は免訴、1949年中心に80人以上から名誉毀損、佐和は8年中1年半獄中、③復刊後「真相歴史史—占領下の言論とはこんなもの」(復刊1=57号1953.11—73号1954.11)全12回連載、④ブランゲ文庫、GHQ/SCAP CCD Records=NARA/RG331と対照可能



・佐和慶太郎 1935-36『労働雑誌』→45.12政治評論誌『人民』(46.2 共産党『前衛』)→46.3大衆娯楽誌『真相』→51.1党分裂休刊、53.11再刊、57.3廃刊

・『真相』の自己規定=「実話読物」「バクロ雑誌」「民衆の雑誌」「常に真実のみを語る」、佐和回想「大衆的暴露誌」、復刊後「アメリカに帰ってもらおう世論をつくる雑誌」

## 1948-『政界ジープ』の右旋回・反共化： 左翼時局雑誌『真相』との対抗

- 1950・3法 別冊政界ジープ特集3号「おどり出た 新興宗教、大宅壮一「明治・大正・昭和新興宗教の全貌」、赤岩栄「インチキ宗教はなぜはびこるか」、武藤富男「銭圖をひっくり返したキリスト」、「新興宗教に希望す」
- 1950・8法 「創刊5周年記念特集」**「極東コミンフォルムの地下組織 G(デレヴィアンコ)機関とF(福本和夫)機関を暴く」**「50年テーゼを生んだ革命指令」「共産党非合法化の前夜を探る」、「スターリン・吉田茂 架空対談」、「講話問題で探る岩波グループ」、「恐るべきソ連の拷問技術」、「国共合作秘話 共産革命の立役者ポロジンと語る」、大宅壮一「学生運動の史的回想」、「イールズ事件後の学生運動」<真相4月号731特集・二村秀雄経歴暴露への反撃>
- 1950・9 政界ジープ臨時増刊「戦争、日本はどうなる、われわれの生活はどうなる、ソ連はいつ攻勢に転ずるか、ソ連果たして原爆を使うか、世紀の運命を決定する水爆の威力、日本国防軍は再建されるか、米國は日本を見捨てない、「戦禍の朝鮮」、「アジアの焦点横須賀基地」、二木秀雄「原爆戦か、ゲリラ戦か—意外なのは米軍の苦戦、ゲリラ戦がかなりの役割」
- 1952・6国 「国会お好み十人衆」、「総理大臣逮捕すべからず」、「政界動物園」、「マニラの鼓動」、「日本真操ジャングル」、連載小説「石原完爾」(発行：ジープ新社 仁藤直哉)、「200万円大懸賞 衆議院解散は何時何月何日何時何分か」、二木秀雄「鮎川義介氏の闘志」
- 1953・4 総選挙特集号「馬鹿野郎解散断行」「総理の椅子をめぐる激動」、「東亜連盟と石原構想」、「同胞三万五千を救った話——中共引き揚げ問題」、「吉田打倒、冬期労働ストの真相」
- 1954・9 「極端化する砂輪事件」、「東邦生命の詐欺事件」、「映画監督を監督する」、「東京予備校横領事件」、「暴かれた加州銀行の乱脈」
- 1955・3国 「鳩山早期引退、今や必要」、「肅正すべき東邦生命のスクランダル」、「疑獄化する砂輪事件」、「一万田蔵相と選挙資金」、「口に国産化を囁え専ら外車愛用の国会族」、「伏魔殿林野庁に再びメス」
- (ジープ社社長 清水隆英、常務・編集局長 久保俊広=陸軍中野学校出身、後に大物総会盟)





# ジープ社経営の多角化 48-50年

政界ジープ 別冊政界ジープ 財界ジープ・経済ジープ



単行本



医学のとびら



読物 ジープ



## 第1次復権：厚生省医務局監修・総合科学研究会発行『とびら』『医学のとびら』ジープ社

1949.6-51厚生省医務局監修・総合科学研究会『医学のとびら』刊行

・「インターン生の雑誌、医師の国家試験の狭き門をくぐる全国幾千の同行に対しささやかな道しるべを与えることこれ本誌創刊の趣旨である」

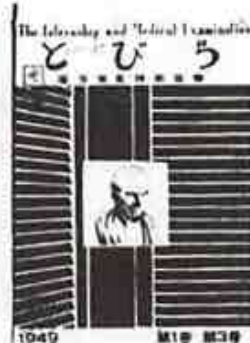
・連載執筆者に二木・石川太刀雄・

緒方富雄ら

・広告は大手医薬

医療機器企業

**診療所 素粒子堂**  
11月10日 開院  
内科・放射線科  
(毎日午後九時～午後五時)  
院長 二木 秀 雄  
副院長 杉 本 誠  
顧問 山 本 誠  
主任 山 本 誠  
副主任 森 本 誠  
院長二木の「素粒子堂」  
雑誌・書籍 二木・石川太刀雄



49秋浅草松屋「若き人々におくる性生活

展」(総合科学研究会、厚生省後援、高橋お伝標本展示、清野謙次の影、大橋義輝『毒婦伝説』共栄書房)

|  |                                      |  |  |
|--|--------------------------------------|--|--|
| 「若き人々におくる性生活展」<br>十一月五日～七日<br>浅草松屋<br>入場料三〇圓 | 「毒婦伝説」<br>十一月五日～七日<br>浅草松屋<br>入場料三〇圓 | 「清野謙次の影」<br>十一月五日～七日<br>浅草松屋<br>入場料三〇圓 | 「高橋お伝標本展示」<br>十一月五日～七日<br>浅草松屋<br>入場料三〇圓 |
|--|--------------------------------------|--|--|

明治の毒婦  
昭和の毒草に正体を現わす!!

「若き人々におくる性生活展」  
十一月五日～七日  
浅草松屋  
入場料三〇圓

「毒婦伝説」  
十一月五日～七日  
浅草松屋  
入場料三〇圓

「清野謙次の影」  
十一月五日～七日  
浅草松屋  
入場料三〇圓

「高橋お伝標本展示」  
十一月五日～七日  
浅草松屋  
入場料三〇圓

お伝の陰部の標本が公開された「性生活展」の広告

## 49末ソ連ハバロフスク裁判報道：雑誌『真相』50.4の 二木秀雄ら731経歴暴露と『政界ジープ』の反撃



- 生きてまま凍った足や腕をメスで鋸で切りとった(マルタ、吉村寿人の凍傷実験)、医師たちは凄惨な実験を見るなり逃げて帰った(清野謙次、石川太刀雄丸、笠原四郎、吉村寿人、岡本耕造、田部井和、林一郎ら関西医学界中枢、「政界ジープ」の二木秀雄は変わり種)、実験に供されたという「満州猿」なる動物はいったい何か? (「満州猿」解剖の世界記録を持つ石川太刀雄、二木秀雄、笠原四郎ら、最後は北野政次も)
- 「政界ジープ」はデマと反撃、共産党50年分裂で「真相」休刊へ＝自滅

37

## 第2次復権：1950日本ブラッドバンク創設

内藤良一・二木秀雄・宮本光一  
＋神戸銀行他で設立(ミドリ十字→薬害エイズへ)



- PHW文書50.7内藤「日本血液銀行企画草案」、日本ブラッドバンク設立に内藤社長・二木・宮本の3取締役のほか、谷友次・石川太刀雄・太田澄、野口圭一、佐藤重雄らが個人株主、朝鮮戦争で米軍と結び乾燥人血漿で大儲け、56北野政次・東京プラント所長→64ミドリ十字→80年代薬害エイズ
- 二木は同時に素粒子診療所開設で、出版社社長兼医師に。53.4参院選石川選挙区立候補泡沫落選(当選井村徳二53改進黨新210442、次点林屋亀次郎66無所属現194279、二木秀雄45無所属新12447)→精魂社と改名、後政界ジープ社

38

## 第3次復権:1952.4細菌戦・原爆の開き直り

『政界ジープ』1950・4 中山参吉「天皇戦犯の震源を衝く:スターリンの一弾は地球天皇の胸板を貫く、ソ連が共産主義を深く浸透させる陰謀」「赤色裁判の恐怖、拷問のカラクリ、細菌戦裁判の実相を暗示する被告元少佐唐沢(柄沢)富雄のメモ、731はソ連検事の誘導尋問による反米でつち上げ裁判・引き揚げ問題の煙幕」、1950・8「暴力のペン振るう人民社の機密室:代々木本部と訣別した独立共産党——『真相』追放の真相、仮面をかぶった左翼商業主義、光クラブも顔負け、人民社から追い出された労農通信社、真相株主人名簿、日共の外郭機関、告訴によって太る、恐るべきスパイ政策」、1952.4 山本容「もしもペスト菌を培養された25億匹の蚤が地球の上に振りまかれたら、人類は一挙に破滅する」「原爆と細菌戦の組み合わせこそ現代最強の武器」



## 仕上げ:1955隊友会「精魂会」、慰霊「精魂塔」

- ①1953恩給法時、全国で戦友会・靖国参拝、二木は精魂社を作り、55.8精魂会・ミニ靖国精魂塔建立
- ②56名簿作成半年前に二木「政界ジープ」事件、二木に命名・150万円中96%寄付の榮譽のみ与え、鈴木重夫ら非戦犯容疑隊員の統括
- ③「精魂会」会員数は56=187,66=234,73=242人(軍医・技師・下士官クラス) 程度、仲間内慰霊
- ④少年兵「房友会」数十人、あわせて90年300人  
ただし「房友会」は全犠牲者慰霊で告発証言も
- ⑤約3000人の沈黙、恩給・靖国を調べる必要

# ジープ社資金・経営の謎

単行本は1946年9冊、47年4冊、48年1冊、49年2冊の後、50年に突然409冊になり、51年は30冊、以後は出版されない

(社名)ジープ社(社長二木秀雄)、東京トリビューン社51.8→52.3ジープ新社、精魂社、政界ジープ社(社長清水隆英)、56.3廃刊時は政界ジープ通信社(社長久保俊広)

(編集人)二木秀雄、50.6中西清、本田二郎、51高橋輝夫、由良猛、横山敏和、52.3復刊後宮下隆寿、市川文三、小山耕二路、久保俊広

(発行人)二木秀雄、狭間研一、佐藤浩四郎、中西、52復刊後は仁藤直哉、市川、清水

## <収入>

- ①出版事業・広告収入
- ②日本ブラッドバンク(後のモドリ十字)取締役・個人大株主
- ③素粒子堂診療所長
- ④731部隊隠匿資金? 白金・錫インゴット
- ⑤生体実験資料提供への米軍対価?
- ⑥スキャンダル恐喝?(6400万円)
- ⑦GHQ・G2機密費?
- ⑧GHQ・PHW機密費?

## <支出>

- ①雑誌出版費用(用紙・印刷・製本、編集・印税・執筆料等)
- ②400冊以上の単行本刊行準備・運転資金・印税(米国もの・反共もの翻訳)
- ③PHW・厚生省、G2等接待費
- ④1953参院選石川出馬政治資金?
- ⑤731部隊隊友会「精魂会」準備、「精魂塔」建立資金(150万円中146万は二木秀雄の寄付)
- ⑥トラック部隊風偽装倒産?

41

## 1956.3 政界ジープ恐喝事件



「一流会社や銀行、政治家などのスキャンダルや暴露記事をネタにした恐喝で月刊雑誌『政界ジープ』を摘発、14人を逮捕。19件の犯行で被害総額は6960万円。戦後最大の恐喝事件」、高橋お伝標本はジープ社ビルゴミ箱で発見。5人を6400万円で起訴、主犯二木は懲役6年求刑、最高裁で69年懲役3年結審・服役



### 「政界ジープ」に手入れ

社長ら七人を逮捕  
政・財界・知名人を脅す

### 井上印刷局長取調べ 背任容疑で逮捕状請求

### 二木社長も逮捕 政界ジープ脅カツ事件

# 裏社会への遺産



## (55.7 731 精魂塔建立時)

編集人：常務・久保俊広(陸軍中野学校→『国会ニュース』、産経リサーチ、『今も生きているテキ屋』、右翼)  
 発行人：社長・清水隆英(→政財界ジープ社)  
 東京本社・大阪支社・4総局・12支局・1通信部体制

●記者たちは「裏社会」へ(伊藤博敏『黒幕』小学館)  
 小野田修二『月刊ペン』『ドキュメント総会屋』『広告王国』  
 大橋一隆『マスコミ時代』東電総会屋担当、石原崩記  
 本田二郎「平和相銀事件」小宮山英蔵秘書、石原俊介  
 五島徳二郎 昭和通商、宝石商、右翼・殉国青年隊顧問

『政界ジープ』→『週刊新潮』の俗物主義、『国会ニュース』(久保俊広)『月刊ペン』(小野田修二)→総会屋系週刊誌『現代の眼』(木島力也)『創』(小早川茂)『流動』(倉林公夫)『新雑誌X』(丸山実) etc. cf. 『真相』→『噂の真相』  
 二木秀雄 a 50日本ブラッドバンク(ミドリ十字)設立、53参院選石川出馬惨敗・精魂社→731戦友会 55.8精魂会、多磨霊園精魂塔建立=731部隊再結集  
 b 56.3政界ジープ恐喝事件で長期裁判・69懲役3年、平和相銀小宮山英蔵・重四郎をスポンサーに1975 日本イスラム教団総裁・石油利権・新宿再開発

# 医師・仏教徒・二木秀雄の晩年：懲りないムスリム入信：日本イスラム教団

### カイスラムのカタリ

円柱亭(日本イスラム教団)

昭和40年頃、マレーシア、エジプト、リビアと往復していた頃、日本イスラム教では、シヤオキ二木秀雄氏率いる日本イスラム教団が突如現れ、一世風靡した。その活動は海外へも波及してきていた。異教徒ながら、国家防衛や、おぼろげな精神教育とインジゲを以て陣頭に立ち、結局日本イスラム教団のリーダーとして活躍することになった。聖地エルサレムに集結した。二木は宗教的な見地から、二木氏の経歴により日本イスラム教団の名前が聞けなくなり、今日に於いて、創設した日本イスラム教団とはどういふ関係にあるのか、今となっては誤解しようにも、海外と連絡がとれていない。ところが、今年になって『月刊新潮』・『東洋』・『文芸』・『三銃』という雑誌に、二木氏、首を過して見ると、当時の日本イスラム教団の様子が描かれていた。二木氏の経歴についても、それらも紹介されている。

二木氏は晩年に著した写真のなかから、この当時の円柱亭の様子がよく描かれている(昭和40年11月13日、近畿地方の某ふるま)を全文紹介して置こう。その他の投稿も是非読んで置こう。

『月刊新潮』・『東洋』・『文芸』・『三銃』  
 昭和40年11月13日発行、定価：500円、創刊：二木秀雄、発行者：同創設人日本イスラム教団、製作された未出版  
 昭和40年11月13日発行、定価：500円、創刊：二木秀雄、発行者：同創設人日本イスラム教団



在日イスラム教団の設立

円柱亭で会食に囲まれるシヤオキ二木氏(中央)と二木氏のサイン。

「アッラーのほかには神はなし」「ムハンマドは預言者である」の二聖句の念誦により、何人もムスリムになり、ついでイスラムの道をゆつくりと登り結めることによって何人も救済にあずかる「大衆イスラム」で、5年間で6万人の信徒を獲得、

シヤオキ二木は、無免許の医師で新宿にクリニックを開いてイスラムをダーク、石油ショックで財界や政界とも太いパイプが出来て、アラブ産油国からも莫大な資金を叩き出した。ムスリムの公称信者数はクリニックの患者の数を公称信者数にしたと言われている。石油ショックでは信者数が増加した。

ある意味、日本の新興宗教団体的な方法で急成長、インドネシアに学校や病院も建設して、一躍海外でも有名となるが、日本イスラム教団が右翼団体のオイルマネー狙いの団体として、二木に悪い噂が出る。石油ショックが終わり、二木の強引な手法で信徒が離れ、やがて、教団が消滅した。

## ●平和相銀・小宮山頭取と組んでオイルマネーで新宿西口再開発利権

・脈打つイスラム新潮流-この目で見た激動中東 二木秀雄『月刊自由民主』自由民主党編(通号294)1980-07

・「イスラム復興」への私見-日本人ムスリムとして考える 二木秀雄『自由』『自由』編集委員会編23(7)1981-07

・日本におけるイスラムの新潮流 二木秀雄『自由』『自由』編集委員会編23(11)1981-